

58 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力(29)

—割烹旅館玉川跡—

29 期 仲田 元昭

JR 船橋駅より徒歩 10 分程にある元国登録有形文化財に登録されていた、割烹旅館玉川（地元では玉川旅館と呼ぶ）跡をご案内します。

「玉川旅館跡」

玉川は、和風割烹旅館でした。「玉川」の屋号は、大正 10 年に料亭を始めた小川家当主の父、小川紋蔵が船橋大神宮奉納相撲で名乗っていた四股名から付けられたものです。

本館は昭和 16 年建築の 2 階建てですが、高床式のため一見すると 3 階建てに見えます。外観を楼閣風にまとめた座敷料亭となっています。

庭内には、船遊びを楽しんだ船着場跡の石垣を見ることができ、ここには温泉が湧き出ており、「湊温泉」として親しまれていました。

戦前まで船橋は陸軍の街でもあり、高級将校などが好んで使用したといわれています。第一別館は昭和 3 年建築の平屋建て、第二別館は昭和 8 年建築の 2 階建てです。趣きのある建物が「平成 20 年 4 月に国登録有形文化財」に登録されました。

風情のある純和風旅館の雰囲気を伝えてくれるとともに、海岸の埋立てが行なわれる以前の風景を伝えてくれる建物でした。

太宰治が 20 日間ほど逗留して、小説「めくら草紙」「ダス・ゲマイネ」等を書いたと言われる「桔梗の間」も残っていました。

太宰治や川端康成が逗留した歴史的建造物も、コロナ禍の影響で令和 2 年（2020）4 月創業 100 年の幕を下ろしました。跡地には高層マンションが建設され、船橋は新しい街へと変身しています。



「元国登録有形文化財 玉川旅館玄関」



「元国登録文化財 玉川旅館第二別館」



「太宰治生誕 110 周年記念石碑ダス・ゲマイネより」

「59 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力(30)」に続く「2025-9-1 寄稿」